

3 全教科についての指導方法の課題分析と改善策

4 全教科についての補足的・発展的な学習指導の計画

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策 (考える力の育成)		補足的・発展的な学習指導の計画		
		指導法の工夫 (教材・教具・指導・評価・支援)	学習技能習熟のための工夫			
国語	<p>○書かれている内容を文章に即して的確に読み取る力を付けるための指導を十分に行う。</p> <p>○漢字を書く力を定着させるための指導を十分に行う。</p> <p>○語彙が豊富とはいえないので、日常の会話や読書などで、語彙を広げたり、正しい使い方の指導を行う。</p> <p>○読書活動を活発にさせるための手立てを工夫する。</p>	<p>○児童が学習課題を立て、意欲をもち進んで解決する授業ができるように教材を精選する。学習のねらいの重点化を図るため、毎時間のねらいを明確にする。</p> <p>○読むことについては、重要語句や指示語・接続語などに注目させ、段落ごとの要旨をまとめる際に、十分に指導する。目的や意図を明確にした読みの指導を行うために、ワークシートの作成や板書の工夫・改善を行う。</p> <p>○漢字習得に際しては、くり返し反復練習するだけでなく、語句の意味・用法・類義語・対義語などにも関心をもたせ、理解を深めさせる。</p> <p>○個に応じた指導を行うために、個々の児童の実態に合わせて、机間指導を重視し、指導・助言を充実させる。</p> <p>○火・木・金曜日に朝読書の時間を設定する。また、保護者による読み聞かせや、ボランティアによるお話を設定する。さらに、児童一人一人が作成したお勧めの本を掲示し、より読書に親しめるように支援する。</p>	<p>○授業の中で次のことを効果的に取り入れ、習熟を図る。</p> <p>* 要旨をまとめる力 (ワークシート・ノート)</p> <p>* 自分の考えを伝える力 (スピーチ、グループでの話し合い)</p> <p>* 語彙を広げる力 (短文作り・仲間集めなど)</p> <p>○日常的に辞書を用いて学習する習慣を身に付けさせ、効果的に活用させることにより、語彙の広がりをもたせる。</p> <p>○漢字ドリル等を使いくり返し練習して習熟を図る。</p>	<p>○児童の実態を考えながら「差し込み教材」を利用する。</p> <p>○学校図書館の活用を推進し、いろいろな文章・作品に親しませるようにする。</p> <p>○発表の場を設定し、表現活動ができるようにする。</p>		
学年毎の改善策	<p>1年：平仮名・片仮名・漢字を正しく読み、書けるように繰り返し練習させる。読むことの楽しさを知らせる。</p>	<p>2年：音読カードを使って毎日継続して取り組み読む力を付けさせる。漢字練習をほぼ毎日取り組ませ定着を図る。</p>	<p>3年：音読を毎日継続して行う中で、文を丁寧に読み取る力を付けさせる。漢字練習をほぼ毎日取り組むようにさせる。</p>	<p>4年：音読、漢字練習を家庭学習で取り組むようにさせる。文章の要点を意識させながら読み取らせる。</p>	<p>5年：『読むこと』に重点を置き、特に説明文を通して、文を丁寧に読み要点を要約する力を育てる。漢字練習を毎日取り組みさせ、力を付ける。</p>	<p>6年：『読むこと』に重点を置き、段落の要点をつかみ、文章全体の組み立てを捉えさせる。そのためにも指示語・接続語の正しい使い方を覚えさせる。</p>

|

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策 (考える力の育成)			補充的・発展的な学習指導の計画
		指導法の工夫 (教材・教具・指導・評価・支援)	学習技能習熟のための工夫		
社会	<p>○場所や地域などの空間認識、過去から現在までの時間認識などの理解や把握の仕方を身に付けさせる。</p> <p>○適切な資料の見方、活用の仕方が分かるように指導する必要がある。</p>	<p>○一つ一つの表やグラフなど、基礎的資料を基に、それらが示す事実やその意味について考えられるような学習活動を展開する。</p> <p>○基礎的資料から読み取った事実を適切に関連付けて、社会的事象の意味を多面的に判断できるように独自の資料を作成する。</p> <p>○児童の学習状況や興味・関心の様子を適切に評価し、個に応じた指導を行うなど、指導と評価の一体化を図る。</p>	<p>*問題解決の方法 (学習問題の作り方・話し合いの仕方など)</p> <p>*まとめ方 (新聞、ノート作り、パソコン等を使った多様なプレゼンテーションの仕方)</p> <p>*発表・吟味の仕方</p> <p>*考え方</p>	<p>○既習事項を学習の中で活用できるようにする。</p> <p>○日常的にニュースや新聞などに関心をもたせ、地名などは地図で場所を確認するなど、地図や資料集を活用する機会を増やす。</p> <p>○話題にのぼった社会事象について『朝の会』などで話し合う機会を設ける。</p>	
学年毎の改善策		3年：東久留米市を実際に見学し、自分の目で確かめたことを基に学習の課題をもたせる。	4年：調査や見学、調べ学習など、自分で調べ、確かめることを大切に。写真、地図などの資料から考えさせるなどの指導を行う。	5年：新聞・ニュースに関心を持ち、資料や事象を読み取る力を付け、社会的思考力を伸ばす指導を行う。	6年：『知識・理解』に重点を置き、ある事象について、他国やそれに関わる人々との関連性を考え、理解を深めさせる指導を行う。



|

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策 (考える力の育成)			補充的・発展的な学習指導の計画	
		指導法の工夫 (教材・教具・指導・評価・支援)	学習技能習熟のための工夫			
算数	<p>○基礎的・基本的な知識・技能を定着させるための指導を十分に行う。</p> <p>○課題の解決方法を学級全体で考えさせてはきたが、一人ひとりの児童に解決方法をしっかりと考えさせるという点についての工夫を十分に行う。</p>	<p>○児童が興味をもって学習に取り組むことができるようにするために、児童の身近な題材を基に、課題を設定する。</p> <p>○『数学的な考え方』を育てるために、単元の目標を的確に捉え、問題解決学習を取り入れた授業を展開する。課題の解決方法は、一人一人の児童の発想を重視し、個に応じた指導を展開することができるようにする。</p> <p>○『数と計算』領域では、既習事項の積み重ねが大事であると考えられることから、評価規準を具体的に作成する。それに基づいて児童一人一人のつまずきを把握し、どこにつまずきがあるのかを分析する。分析に基づいて、基礎的・基本的な内容の定着を図ることができるように指導をする。</p> <p>○少人数による学習では、計算や作図の技能を習熟できるように、十分な時間を取り、丁寧に支援する。</p>	<p>○基礎的・基本的な内容の確実な定着をねらい、『数と計算』領域では、『速く・正確に』できることを目標として、授業開始5分間を利用して、計算力をつけることができるようにする。</p> <p>○ドリル学習のくり返しによる計算力の向上を図る。</p>	<p>○学習した内容を生活の中で活用することができるようにするため、児童の生活の中における必要感のある課題を設定し、補充的な課題、または、発展的な課題として取り組ませる。</p> <p>○発展的な内容を組み込んだプリントを作成し、児童の習熟の程度に応じて取り組ませる。</p>		
学年毎の改善策	1年：ブロックなどの具体物を使い、数の概念をつかみやすくする。計算カードやドリルを使い反復練習をし、定着を図る。	2年：計算ドリルやプリントを使いくり返し練習し、定着を図る。学習したことを掲示し、振り返り学習の手立てとする。	3年：計算ドリルを利用して、反復練習をし、計算力を付ける。	4年：計算ドリルを利用して、反復練習をする。教室内に学習したことを掲示し、振り返り学習の手立てとする。	5年：基礎・基本の習得のために『つまずきの原因』にさかのぼり、くり返し指導し、『分かる』ことを実感させる。	6年：『表現・処理』に重点を置き、既習事項の復習やドリル・家庭学習を徹底させ、基礎・基本を習熟させる。



|

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策 (考える力の育成)		補充的・発展的な学習指導の計画	
		指導法の工夫 (教材・教具・指導・評価・支援)	学習技能習熟のための工夫		
理科	<p>○問題解決的な授業展開の中で『観察・実験の技能・表現』、『科学的な思考』を育成する指導を十分に行う。</p> <p>○教材・教具を十分に整え、観察・実験の指導を安全に且つ、的確に行う。</p>	<p>○個人での実験・観察ができるように、全児童に一人一つの器具を確保する。</p> <p>○問題解決的な授業ができるような教材開発を、学期に一単元以上行い実施する。</p> <p>○実験・観察の基礎知識の定着を図るために、基本操作に重点を置いた指導を行う。</p> <p>○基礎・基本の知識と科学的な思考を育てる演習問題を単元の終わりに行い、それを評価する。</p> <p>○ノートの書き方を指導する。また、毎時間実験や観察での感想や疑問に思ったこと・不思議に思ったこと・調べてみたいことなどを書かせ、次時の課題に繋げる。</p>	<p>○次の学習スキルを指導計画に明確に位置付け、効率的に授業に取り入れ、学習技能の習熟を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> *課題発見力 *実験力・観察力・見学力 *情報収集の仕方 *コンピュータの技能 *図鑑の見方 *表現力(発表・カード) 	<p>○単元末の発展学習を実態に則して、積極的に取り入れる。</p> <p>○内容選択の授業で、補充的な学習を行う。</p> <p>○夏季休業・冬季休業中に、自由研究課題を与え、自ら課題を設定し、実験・結果をまとめるなど、『自ら考える学習』を行わせる。</p>	
学年毎の改善策		3年：観察や実験を通して、意欲的に進んで課題に取り組む児童を育てる。	4年：観察・実験など、自分で確かめさせる。予想、実験、結果、考察を身に付けさせ、問題解決学習の基礎を築く。	5年：実験・観察の意欲・関心を高め、『なぜだろう』と考える力・調べる力を付けさせる。また実験の条件に着目させ、条件制御の考えを身に付けさせる。	6年：『科学的な思考』に重点を置き、実験・観察の仮説を立て推論させる。また、実験・観察の結果から結論に至る過程を考察させ、科学的なものの見方や考え方を伸ばす。



|

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策 (考える力の育成)			補充的・発展的な学習指導の計画
		指導法の工夫 (教材・教具・指導・評価・支援)	学習技能習熟のための工夫		
生活	<p>○児童にねらいや課題をはっきりとつかませてから、活動を行う。</p> <p>○身近な人や社会・自然と関わる力を育てる指導を計画的に行う。</p>	<p>○様々な活動を通して、経験を広め、楽しく活動できるようにさせる。</p> <p>○他教科との関連性を明確にし、学びにつながりと連続性をもたせる。</p> <p>○保護者や地域の方々に協力・支援をお願いし、地域社会との関わりが感じられるような活動を行わせる。</p>	<p>○実体験を通して、見る・聞くなど五感を使って、気付くような活動をさせる。児童の発する言葉を大切にし、共有させる。</p> <p>○発見したり、考えたりしたことを「学習カード」にまとめ、周りの人に発表できる場面を設定する。</p>	<p>○家庭・地域の一員としての活動を意図的に設定し、学んだこと実生活に生かし身に付けていく機会を増やす。</p>	
学年毎の改善策	<p>1年：具体的な活動や体験を通して、人や自然との関わりを大切にする。楽しい活動を共有できるようにさせる。</p>	<p>2年：植物を育て観察したり、地域を回って町の様子を見たりして、人との関わりや気付きを大切にする。それを発表する場をもち、共有させる。</p>			



|

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策 (考える力の育成)			補充的・発展的な学習指導の計画	
		指導法の工夫 (教材・教具・指導・評価・支援)		学習技能習熟のための工夫		
音楽	<p>○音符・休符の音程とリズムとの関係についての指導を十分行う。</p> <p>○合唱の取り組みの中で、3度5度などのハーモニーを聴き合って歌うための聴く力を付ける指導が必要である。</p> <p>○鑑賞について、発達段階に応じて、表現領域とリンクしながら設定していく。</p>	<p>○音符・休符の長さの関係を示した表を児童の見える場所に掲示する。音程についても、音符の位置関係を掲示等により明確に表示していく。</p> <p>○フラッシュカードを使い、音符・休符と長さについて、繰り返し学習する。</p> <p>○リズムを真似してたたいたり、2小節の節を真似して演奏したりする学習を取り入れ、聴く力を養う。</p> <p>○授業の導入として、3度や5度のハーモニー感をとれるように、発声練習を工夫する。</p> <p>○歌唱教材や合唱教材で、関連する鑑賞教材を開発し、場面に応じて効果的に鑑賞していく。</p>	<p>○楽譜を通して演奏することを繰り返し行い、音符の長さ・記号・音の高さを意識させる。</p> <p>○各題材で、横断的に復習をすることで、より定着を図る。</p> <p>○模範演奏を聴き、音の響き合いを学習したり、一音ずつ取り出して響きを確認させたりする。</p> <p>○和音の種類を少しずつ増やし、和音感覚を深める。</p> <p>○題材に応じた、鑑賞カードの工夫と補助カードの開発をする。</p>	<p>○技能別に速度を変えて練習できるように、シンセサイザーで、模範演奏を作成する。</p> <p>○進度自由の方法で学習し、一つの曲をアンサンブルへと作り上げる。</p> <p>○グループ活動から、学び合うことの中で、基礎的な学習をフィードバックして復習していく。</p> <p>○鑑賞している時点での意欲・関心の評価ができるような、補助カードを工夫していく。</p>		
学年毎の改善策	1年：身体表現と基礎的な音楽の要素を結び付けながら、感覚的に音楽の仕組みをとらえられるように、常に授業を構築する。	2年：鍵盤を中心に、基礎的な奏法と音符の特徴を感覚的にとらえさせていく。身体表現をグループでの活動に広げる。	3年：リコーダーの基礎を読譜することと合わせながら進めていくことで、読譜することを定着させる。	4年：鑑賞との関連を深めながら、リコーダーの技能と読譜力の上に向けた表現をめざし小規模な合奏に発展させる。	5年：ハーモニー感覚を楽曲の一部分や創作活動の中でとらえていくことで、和声感を養う。	6年：和声を合唱のなかで実習していく中で、和音の種類を増やし、音楽表現の幅を広げていく。



|

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策 (考える力の育成)		補充的・発展的な学習指導の計画
		指導法の工夫 (教材・教具・指導・評価・支援)	学習技能習熟のための工夫	
図画工作	<p>○ 児童一人一人の学習状況の把握をより充実させる。また、学習のめあてに沿って造形活動の楽しみを十分に味わわせることが必要である。</p> <p>○ 友だちや人とのかかわりの中での学習を充実させることが必要である。</p>	<p>○ 題材の目標をより明確にし、評価方法の工夫を行いながら、児童の一人一人の学習状況・能力を把握し、個別の指導を行っていく。また、個別の指導を充実させていくことにより、一斉指導の充実につなげていく。</p> <p>○ 共同制作や互いの作品を鑑賞する時間を取り入れることによって、人と人とのかかわりや友だち同士でのかかわりの充実を図る。</p>	<p>○ さまざまな用具や材料の扱い、使用方法について確実に課題解決の力を身に付けさせるようにする。</p> <p>○ 教師や友達の話を「聞く」ことの大切さを理解させ、個々の学習に生かすことができるようにする。</p>	<p>○ 児童一人一人の能力に合わせて表現の深まりや広がりを図る題材を用意する。</p> <p>○ めあてを達成した児童には予備的な活動を提供し、さらなる能力の育成を図る。</p>
学年毎の改善策	<p>1年、2年：</p> <ul style="list-style-type: none"> さまざまな用具や材料の扱い、使用方法について基本的なことを繰り返しながら造形活動を楽しむ。 楽しみながら、のびのびと体全体の感覚を養い、技能を身に付けさせる。 	<p>3年、4年：</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習の経験を生かすと共に、新しく扱う用具や材料の正しい使用方法を確実に身に付けさせる。 協同制作では、友達同士で相談したり、認め合ったり、人とかかわる活動を充実させる。 	<p>5年、6年：</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習の経験を総合的に生かしながら、全体の構成を考えて、じっくりとていねいに作品を仕上げるようにする。 鑑賞などで人のよさを認めたり、自分の意見をもって発表できるようにする。 	

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策 (考える力の育成)		補充的・発展的な学習指導の計画
		指導法の工夫 (教材・教具・指導・評価・支援)	学習技能習熟のための工夫	
家庭	<p>○体験のある児童とない児童との力の差が大きいので、個別指導の行い方を工夫する必要である。</p> <p>○家庭生活とつながる学習を設定する必要である。</p>	<p>○学習したことを家庭生活で実践できるような課題を与える。</p> <p>○手順や操作が視覚的にはっきり分かるような教具を準備する。</p> <p>○各自の学習過程を評価できるようポートフォリオ評価を行う。</p>	<p>○各自の計画や反省に沿って反復練習を行う。</p> <p>○個人だけで活動させるのではなく、グループ内で教え合う機会を多く設定する。</p>	<p>○学習したことを家庭において実践し、その結果を発表する機会を設定する。</p>
学年毎の改善策				<p>5年：学習したことを家庭においても、実践するような課題を与える。</p> <p>6年：課題に対してグループ内でも教え合ったり考えたりして取り組ませる。</p>



|

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策 (考える力の育成)		補充的・発展的な学習指導の計画
		指導法の工夫 (教材・教具・指導・評価・支援)	学習技能習熟のための工夫	
体育	<p>○運動の特性を理解し、児童に運動の楽しさを十分に味わわせる指導の工夫が必要である。</p> <p>○個に応じた指導を十分行う必要がある。</p> <p>○スポーツテストの結果を生かし、力いっぱい活動できる運動量、時間の確保に努める。</p>	<p>○児童に「学習の見通し」と「めあて」をワークシートなどではっきりもたせ、児童が進んで力いっぱい取り組めるよう、学習過程を工夫し、それを指導計画に明示する。</p> <p>○一人一人を生かす適切な教材、学習活動の場、用具の工夫をする。</p> <p>○児童の意欲を高めるよう、学習の約束事を徹底させ、効果的な助言、共感的・肯定的な言葉がけを工夫する。</p>	<p>○発達段階や学習の実態に応じた学習カードを作成し、段階をおって、主体的な学習ができるようにしていく。</p> <p>○自己評価の欄を学習カードに設け、運動の結果を確認し、修正を図らせる。</p> <p>○グループ（チーム・ペア）学習を通し、人との関わり方を身に付けさせる。</p>	<p>○新しい技に挑戦できるように、また、振り返りができるように、効果的な学習情報を与える。</p> <p>○ステップごとの活動の場を工夫し、価値のある運動を経験させる。</p>
学年毎の改善策	<p>1・2年</p> <p>○簡単なきまりや活動を工夫して、各種の運動を楽しくできるようにするとともに、その基本的な動きを身に付け、体力を養う。</p> <p>○だれとでも仲よくし、健康・安全に留意して意欲的に運動をする態度を育てる。</p>	<p>3・4年</p> <p>○活動を工夫して各種の運動を楽しくできるようにするとともに、その基本的な動きや技能を身に付け、体力を養う。</p> <p>○協力、公正などの態度を育てるとともに、健康、安全に留意し、最後まで努力して運動をする態度を育てる。</p>	<p>5・6年</p> <p>○活動を工夫して各種の運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、その特性に応じた基本的な技能を身に付け、体力を高める。</p> <p>○協力、公正などの態度を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を育てる。</p>	



|

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策 (考える力の育成)			補充的・発展的な学習指導の計画
		指導法の工夫 (教材・教具・指導・評価・支援)	学習技能習熟のための工夫		
総合的な学習の時間	<p>○自ら課題を見付け、ねばり強く追究する力を育てる指導が必要である。</p> <p>○友達の考えを受けとめ共に考えたり、発表したりする機会を多く設定し、他とのかかわりを深めていく指導が必要である。</p>	<p>○学習内容を「地域に根ざした内容」と「学校生活・くらしをつくる内容」に分けて設定し、それを児童に知らせることで、自ら課題を見付けやすくさせる。</p> <p>○ねばり強く課題追究ができるように、担任だけでなく、専科の教師や保護者・地域の方々にも授業に参加していただき、多方面からの支援を行う。</p> <p>○一斉学習だけでなく、グループ学習（生活班別・テーマ別・課題別）などを多く取り入れ、人とのかかわりを重視した学習形態や活動を行う。</p> <p>○調べ学習の際には、単に調べたことをまとめるだけでなく、調べたことに対する自分の考えや意見をもつよう指導する。</p>	<p>○次の学習技能を内容に合わせて、意図的に活動の中に位置付け、習熟を図る。</p> <p>*調べる方法 (学習資料の活用の仕方、情報の集め方、資料活用の仕方等)</p> <p>*問題解決の方法 (学習問題の作り方、話し合いの仕方等)</p> <p>*まとめ方 (多様なプレゼンテーションの仕方、発表の仕方)</p> <p>*発表、吟味の仕方 (自分自身、友達の発表の振り返り)</p> <p>*考え方 (調べたことに対する自分の考えや友達の考えの振り返り)</p>	<p>○他の教科においても関連する事項があれば、続けて課題追究をする時間を設定し総合的な学習の時間だけでは足りないところを補充させる。</p> <p>○長期休業中の自由研究に、授業で学習したことをさらに発展させた内容の研究を積極的に行わせる。</p>	
学年毎の改善策		3年：自ら課題を見つけ、追究する力を育てる。調べたことをまとめたり発表したりする。	4年：自ら課題を見つけ、追究する力を育てる。友達の考えを受け止めると共に、調べたことをまとめたり発表したりする。	5年：学習課題に対して、自らめあてをもって取り組み、学習後には必ず活動を振り返り、自分の考えを深めるようにする。	6年：学習課題に対して、自らめあてをもって取り組み、学習後には必ず活動を振り返り、自分の考えを深めるようにする。学習したことを他学年に発表することで、自分の学習をより確かなものにする。



|

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策 (考える力の育成)		補充的・発展的な学習指導の計画
		指導法の工夫 (教材・教具・指導・評価・支援)	学習技能習熟のための工夫	
外国語活動	<p>○言葉や動作などで表現力を十分に身に付けさせることが必要である。</p> <p>○身近な出来事や簡単な生活様式の違いを知るために興味・関心をもたせる必要がある。</p>	<p>○カードや実物を示して、具体物と言葉の結びつきを強めていく。</p> <p>○表現活動の場面を多く設けられるような教材を使って、楽しみながら身に付くようにさせる。</p> <p>○テープやCDなどを使って、ネイティブ言語を聴き、慣れさせていく。</p> <p>○A L Tの活用計画を策定し、それを活用することで、外国語活動の実践につなげていく。</p>	<p>○発音・発声を反復練習し、言語活動の定着を図る。</p> <p>○ふだん使っている簡単な事柄を日常生活の中に取り入れるようにする。</p>	<p>○ローマ字の大文字や小文字の読み方を練習したり名札を書いたりして、文字への関心を高めていく。</p>
学年毎の改善策				<p>5年：具体物を提示して言葉以外にも動作や表情で自分を豊かに表現できるようにする。</p> <p>6年：一度学習したことを繰り返し反復練習すると共に、身の回りのことについて尋ね合って楽しむことができるようにする。</p>



|

